

## 地方のトピックニュース

## 猛暑対策に「空調服」を導入、下刈りが楽に——北都留森組

山梨県の北都留森林組合（本所＝上野原市）は、下刈り作業時の暑さ対策として吸気ファン付きの「空調服」を導入した。労働強度が軽減され、作業効率もアップする効果を上げている。

「空調服」は、工場や屋外などエアコンが使えないところでも快適に作業できるようにと（株）空調服（東京都板橋区）が10年ほど前に開発した。ブルゾン型の服の後側2か所に小型の吸気ファンがついており、ファンから取り込まれた空気が服と体の間を流れて襟元と袖口から排出される間に汗を蒸発させて体の表面を冷やす。電源は小型バッテリーと電池ボックス（単3電池4本使用）の2種類から選べ、バッテリーの場合は最大30リットル/秒、電池の場合は同20リットル/秒の風量がある。ファンや電源は取り外し可能で、普通の服と同じように洗濯できる。生地の種類はポリエステル・綿・混紡などから使用目的に応じて選べる。

同組合は平成23年度に労働災害が多発し、翌24年度に山梨県下の林業事業者としては初めて安全管理特別指導事業場に指定された。空調服を導入したのは、安全対策強化の一環で、費用は服本体とファン、電池ボックス、蓄電池のワンセットで約1万5000円。現場職員19人全員（うち2人は定年後の再雇用者）に支給しており、生地は速乾性のあるポリエステルを選んだ。

職員の評判は上々で、炎天下でも快適に作業できるため疲れが少なく、水分補給量も減少したという。ファンから取り込まれた空気で服が膨らむので、蜂刺されを防止する効果もある。労働強度が軽減された分、作業効率が向上し、トータルで30万円ほどの導入コストも「すぐに元が取れた」（中田無双参事）。



吸気ファン付きの「空調服」

中田参事は「林業事業者で空調服を正式採用したのは当組合が初めてではないか」と話している。